



とする症例について、あん摩・マッサージの施術を受けることに関し医師の同意があった場合に健康保険の対象となります。医師の同意は6か月ごとに必要です。

したがって、疲労回復、慰労目的、疾病予防のためのマッサージ等は健康保険の対象となりません。

▼あん摩・マッサージの受診に関して詳しくはこちら（協会けんぽホームページ）  
<https://www.kyoukaikenpo.or.jp/g3/cat310/sb3095/r138>

## 季節の健康情報

時期に応じた健康情報や健康レシピをご紹介します！ぜひご覧ください。

<https://www.kyoukaikenpo.or.jp/g5/cat520/h30/301101002>

## ドクターすなみの脳のおはなし

第129回 心に残る患者さん ヘップバーンに見えてきた92歳の寿美子ばあちゃん

平成29年9月25日の秋晴れの朝、山下寿美子さん（仮名）92才がストレッチャーに乗って救急病院から転院してきました。寿美子さんは9月5日、発作性心房細動による脳塞栓で右中大脳動脈起始部の閉塞を生じ、意識障害と左片麻痺で救急搬送され、t-PA治療を受け、麻痺はやや改善したものの寝たきり状態が続き、9月25日当院の回復期リハビリ病棟へ転院となりました。

来院時には何とか開眼しぼそぼそと話されますが、呼びかけないとずっと眠っている状態で、元気はなく、微熱も続いており、果たしてちゃんとリハビリができるだろうか心配でした。血液検査でも白血球が13100もあり、脱水も認められました。予想したとおり、翌日には38.8℃の発熱があり、胸部レントゲンでは明らかな肺炎を呈していました。早速、抗生剤の点滴を開始し、ご家族に病状説明いたしました。

最初の日には静かに眠っておられましたが、翌日脱水が軽快し多少は元気になったのか、点滴を自己抜去し、酸素チューブも勝手にはずし、看護師さんの言うことは一切聴かず困った患者さんになってしまいました。

肺炎の悪化を恐れ、眠らせることもできず、再々点滴を入れ替える毎日が続きました。娘さんも毎日面会に来てくださり、「お母さん、こんな状態なら家に連れて帰れないよ！」と怒鳴って、点滴の入った左手を動かさないようにじっと持っててくださいました。

少しずつ熱は下がっていききましたが、

「しんどい。背中をさすって」

「トイレへ行きたい。連れてって」

「胸がむかむかする。先生を呼んで」

「眠れないから何とかして」

などと、昼夜逆転して夜中中わめいたり、叫んだりとなだめすかすのに苦労しました。

その後も嘔吐したり、おしっこが出なくて導尿したり、5分から10分ごとにナースコールを鳴らしたりと落ち着かない毎日でした。

10月11日の担当者会議（入院後2週間で患者さんのご家族と主治医・担当看護師・担当介護師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・管理栄養士・ケアマネ・地域連携室相談員が集まり、病状説明の上、質問にお答えし、今後について相談する会。その後は毎月1回実施）では現状では自宅への退院は困難であり、施設入所も検討しなくてはならないかも、寝たきりに近い状態のままかも、と明るい材料が少なく、ご家族も半ばあきらめた感じでした。

ところがその夜のこと。警報器の誤作動があり、病院中に警報が鳴り響き、寿美子さんも飛び起きました。怖くて怖くて、見回りに来た看護師さんに抱きつかれました。震えが止まりません。

「山下さん、大丈夫ですよ、心配ありません。あれっ、ちゃんと立っていますね。元気になったねえ」

と看護師さん。

「怖い、怖い」

と、看護師さんに抱きついたままです。結局、朝まで眠れなくて車椅子で座ったまま、食堂で一夜を過ごしました。

翌朝、私が病室を訪問すると

「先生、怖かったのよ。まだ足が震えとる。怖い怖い！」

と私に抱きつき、私の胸に顔をうずめて泣くのです。私も 92 才のよぼよぼばあちゃんをしっかりと抱きしめました。

この警報事件が幸いしました。寿美子さんは翌朝から真面目にリハビリに取り組みようになりました。食事ほとんど食べてくれなかったのですが、言語聴覚士の指導にしっかりと耳を傾け、ゼリーやプリンしかのどを通らなかったのが、次第次第に固形物となり、

「ここの食事はおいしい、おいしい」

と言ってくれ、全量摂取できるようにまで回復しました。

当院の食事は患者さんも職員も同じメニューとなっています。私たちも毎日食べるので、管理栄養士さんについて注文が多くなります。そのせいもあって、ずいぶん美味しい食事になっています。味噌汁がいまひとつ美味しくないとはいえ、味噌が変わりました。魚屋さんもパン屋さんも変わったそうです。

患者さんは急性期病院の治療を終え、回復期リハビリに転院してきたとき、多くの方が低栄養の状態となっています。5kg 以上もやせて来られる患者さんも多くいます。美味しい食事をしっかりと食べていただき、少しは太って帰っていただきたいと切に願います。毎日の食事が楽しみになるように、これからも栄養士さんや食事スタッフにはいっぱい注文をつけたいと思います。

11 月に入ると寿美子さんの表情がとても明るくなってきました。担当者会議でも、ご家族に作業療法士が今週中には車椅子を脱却し歩行器歩行にできそうです。看護師は夜間もベッド脇のポータブルトイレでなく、普通のトイレに見守りで行けるようになりそうです。介護師はストレス解消できたのか、明るくなりました。しばしば話しかけてくださるようになりました。山下さんのお孫さんのことを楽しそうにお話してくださいます。栄養士は乳製品は苦手なようですので、注意しています。最後に主治医の私からは 1 月中旬から下旬に退院する目標です。

12 月には歩きすぎて太ももがパンパンに張り、湿布を左右に 3 枚ずつ貼っていました。理学療法で歩行器から杖歩行を開始し、作業療法では入浴訓練があり、料理もやりたいとある日のランチにカレーライスをほぼ 1 人で作り、私もお相伴に預かりました。楽しいうれしいランチタイムで、カレースパイスのクミン・コリアンダー・カルダモン・ターメリック・チリペッパーの説明を聴いていると、しわしわよぼよぼの寿美子ばあちゃんは可愛い可憐な貴婦人に変身していました。なんだかヘップバーンに見えてきました。私に向かって

「私たち、20 代で出会っていたら、きっとうまくいったと思うわ」

のせりふが印象的でした。

大晦日から 2 泊 3 日で自宅へ外泊し、お雑煮も無事食べることができたとの報告を受けました。

年明けの 1 月には薬は自分で管理するようになり、普通の風呂に 1 人で入れるようになりました。床からの立ち上がりも支えがあればできるようになり、病院のどこへでも歩行器で行ってもかまわない許可が降りました。退院後のデイケア見学に行く日には朝からそわそわして、おめかしして娘さんと相談員と出かけました。

2 月 5 日、ついに退院の日がやってきました。FIM (Functional Independence Measure) 機能的自立度評価も運動機能は入院時 27 点から退院時 80 点と大きく改善しました。

病院玄関に多くのスタッフが勢ぞろいし、寿美子ばあちゃんを見送りました。娘さんの車に乗る直前に、私のところへやってくる私をしっかりと抱きしめてくれました。私もしっかりと抱きしめて、心の中で愛してるよと叫んでいました。生涯で 2 番目に心に残る抱擁だと今でもこの手が覚えています。

脳神経外科医 角南 典生 (すなみ のりお)

=====

▼こちらから「Salud!えひめ」のバックナンバーをご覧ください。

<http://www.kyoukaikenpo.or.jp/shibu/ehime/cat130>

-----  
Salud (サルー) とはスペイン語で「健康」「乾杯」を意味する言葉です

同僚や友人ご家族に「Salud!えひめ」をぜひご紹介ください。

---

全国健康保険協会（協会けんぽ）愛媛支部  
〒790-8546 松山市千舟町4-6-3 アヴァンサ千舟 1階  
TEL 089-947-2100（代表）  
ホームページ <http://www.kyoukaikenpo.or.jp/shibu/ehime/>

---

▼配信停止を希望される方はこちらから  
[https://merumaga.kyoukaikenpo.or.jp/webapp/form/16520\\_kly\\_1/index.do](https://merumaga.kyoukaikenpo.or.jp/webapp/form/16520_kly_1/index.do)

▼登録情報を変更されたい方はこちらから  
[https://merumaga.kyoukaikenpo.or.jp/webapp/form/16520\\_kly\\_2/index.do](https://merumaga.kyoukaikenpo.or.jp/webapp/form/16520_kly_2/index.do)  
※現時点の登録情報が記載されていますので上書き入力にて変更してください。

---